

2017年2月23日  
熊本日日新聞 P.22



「ハレ」をテーマにした作品が並ぶ崇城大芸術学部  
の卒業展・修了展＝熊本市中央区

# 「新たな表現」並ぶ

崇城大芸術学部  
卒業展・修了展

崇城大芸術学部の4  
年生と大学院生の卒業  
展・修了展が21日、熊  
本市中央区の県立美  
術館本館で始まった。

デザインなどを専攻す  
る49人が出品してい  
る。

熊本地震を経験した  
学生たちが新たな表現  
に挑んでいる。26日ま  
で。

熊本地震から着想し  
た作品も多い。洋画の  
4年中島知宏さん(22)  
＝熊本市南区＝は、地  
震で見つかったビデオ  
テープに映っていた幼  
少期の自身と双子の姉  
を、油絵に投影した。

中トにした。ろう製の  
三つ葉を約千個並べた  
中に四つ葉を1個だけ  
入れて、壁面を飾った。  
「何げない日常のあり  
がたさを表現したかつ  
た」

卒業展は15回目、修  
了展は13回目。地震で  
沈んだ気持ちを晴らせ  
うと、テーマを「ハレ」  
にした。日本画や洋画、  
彫刻、視覚芸術、写真、

視覚芸術の4年緒方  
薫さん(22)＝同北区＝  
は、避難先にあった四  
つ葉のクローバーをヒ

実行委員長の4年福  
山大夢さん(21)は益城  
町在住。「芸術で被災  
した人たちの心を明る  
く照らせたら。学生の  
向上心も見てほしい」  
と話している。

(中原功一朗)